

- 問1 沖縄県の産業構造において、製造業などの第二次産業の割合が低く、サービス業や小売業などの第三次産業の割合が突出して高い理由として、適切なものを選択してください。 (2019年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 県外からの輸送コストが高いため、原材料を輸入して製品を輸出する加工貿易型の工業が全く発達しなかったため。 | 2. 亜熱帯の気候や独自の文化を求めて国内外から多くの観光客が訪れ、観光関連産業が県の経済を支えているため。 | 3. 広大な平野を利用した機械化農業が推進され、農産物の加工から販売までを行う第六次産業が製造業に代わっているため。 | 4. 政令指定都市を中心とした都市圏が形成され、情報通信技術（ICT）関連の製造工場がすべて県外に移転したため。 |
|---|--|--|--|
- 問2 宮崎平野や高知平野の位置が示された地図において、これらの地域で温暖な気候を利用し、ビニールハウスなどを使って野菜の出荷時期を通常より早める工夫が見られる場合、この農業形態は何と呼ばれるか。 (2023年 青森県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1. 抑制栽培 | 2. 近郊農業 | 3. 促成栽培 | 4. 企業的農業 |
|---------|---------|---------|----------|
- 問3 日本の諸地域を学習する際、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州の七つの地方区分が用いられることがあります。宮崎県を含むこの地方区分に基づいたとき、宮崎県と同じ区分に属する県の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2025年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|-------------|------------|------------|
| 1. 熊本県・徳島県 | 2. 福岡県・鹿児島県 | 3. 広島県・岡山県 | 4. 愛媛県・香川県 |
|------------|-------------|------------|------------|
- 問4 九州地方の各県の産業を比較した統計資料において、豚の飼育頭数やきゅうりの生産量、製造品出荷額が一定の規模を有し、かつ「地熱発電量」が約823百万kWhと非常に多く、全国的にも上位に位置する県はどこか、名称を答えなさい。 (2024年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|--------|--------|
| 1. 鹿児島県 | 2. 大分県 | 3. 宮崎県 | 4. 福岡県 |
|---------|--------|--------|--------|
- 問5 九州の南東部に位置する県で、黒潮の影響を受けた温暖な気候を利用し、ピーマンなどの野菜を通常の時期より早く出荷する促成栽培や、肉用牛の飼育を中心とした畜産が盛んな県はどこか。 (2019年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|---------|--------|
| 1. 熊本県 | 2. 宮崎県 | 3. 鹿児島県 | 4. 高知県 |
|--------|--------|---------|--------|
- 問6 九州地方南部に位置する鹿児島県では、火山噴出物が堆積して形成されたシラス台地が広く分布しています。この土地の「水はけが良すぎる」という性質を背景として、古くから稲作が制限されてきた代わりに発達した、鹿児島県の農業産出額の半分以上を占める主要な農業部門は何ですか。 (2024年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------|----------------|------------------|-----------------|
| 1. 温暖な気候を活かした果樹栽培 | 2. 近郊農業による野菜栽培 | 3. 豊富な地下水を利用した稲作 | 4. 広大な土地を利用した畜産 |
|-------------------|----------------|------------------|-----------------|
- 問7 九州南部の宮崎県や鹿児島県では、農業産出額の約6割を畜産が占めています。このように、この地域で豚や肉用牛、鶏などの飼育が盛んになった地理的理由として最も適切なものはどれですか。 (2020年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 火山灰を主成分とするシラス台地が広がっており、水持ちが悪く稲作に適さなかったため、広大な土地を利用できる畜産が行われるようになった。 | 2. 温暖な気候を利用して年に2回米を収穫する二期作が衰退し、その跡地をすべて牧草地に転換したため。 | 3. シラス台地は栄養分が豊富な土壌であり、家畜の餌となるトウモロコシや小麦の生産が国内で最も盛んに行われたため。 | 4. 海岸沿いに広がる平坦な埋立地を利用して、海外から輸入した飼料を直接加工する大規模な工場と農場が直結しているため。 |
|---|--|---|---|
- 問8 日本の各地方の統計データにおいて、人口が約1431万人、農業生産額が約1.9兆円、工業生産額が約25.7兆円を示している地方区分はどれか。西日本の他地域と比較して農業生産額が高い水準にあることも特徴である。 (2023年 青森県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------|---------|---------|---------|
| 1. 中国・四国地方 | 2. 九州地方 | 3. 近畿地方 | 4. 中部地方 |
|------------|---------|---------|---------|
- 問9 鹿児島市の沿岸部において、1983年には海だった場所が2004年には「みなと大通り公園」や「水族館」が位置する陸地へと変化した。このような地形の変化をもたらした背景として正しいものはどれか。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 火山の噴火によって流出した溶岩が海岸線に到達し、冷えて固まることで土地が広がった。 | 2. 大規模な地震によって地盤が急激に隆起し、海面下だった場所が陸地になった。 | 3. 地球温暖化の影響で海面が低下したことにより、浅瀬だった場所が自然に陸地化した。 | 4. 都市機能の拡充を目的に、土砂などで海を埋め立てて新たな土地を造成した。 |
|--|---|--|--|
- 問10 福岡県の自然環境について説明した次の文章のうち、正しいものはどれですか。県の北東部に位置し本州との境界となっている潮流の速い海峡と、県の南西部に位置し日本で最も干満の差が大きいことで知られる海の組み合わせを選びなさい。 (2021年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------|--------------|-------------|-------------|
| 1. 関門海峡と有明海 | 2. 豊後水道と鹿児島湾 | 3. 津軽海峡と大村湾 | 4. 紀伊水道と伊勢湾 |
|-------------|--------------|-------------|-------------|
- 問11 関東地方の卸売市場におけるきゅうりの出荷状況をみると、福島県産などは夏場に供給のピークを迎えるのに対し、宮崎県産は11月から翌年5月にかけての供給量が多くなっています。宮崎県がこのような出荷時期の調整を行う主な理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 宮城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---------------------------------------|--|
| 1. 他の産地の出荷が少ない時期に販売することで、高い価格での取引を狙うため | 2. 夏場に発生しやすい台風の被害を避けるために、栽培時期を冬に限定しているため | 3. 消費地である関東地方までの輸送コストを、冬場の方が安く抑えられるため | 4. 冬の乾燥した気候を利用することで、農薬の使用量を抑えた栽培が可能になるため |
|--|--|---------------------------------------|--|
- 問12 鹿児島県において、6月から7月にかけて降水量が著しく多くなる理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2021年 新潟県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. シベリア高気圧から吹き出す冷たく湿った北西の季節風が、山脈にぶつかり上昇気流を発生させるため | 2. 夏に小笠原高気圧が後退し、冷涼な北東の風である「やませ」が吹き込むことで大気が不安定になるため | 3. 年間を通じて安定した偏西風の影響を受け、瀬戸内海からの湿った空気が継続的に流れ込むため | 4. 梅雨前線がこの地域に停滞しやすく、南方からの暖かく湿った空気が供給されやすいため |
|---|--|--|---|
- 問13 九州の北西から日本海へ流れ込む対馬海流は、日本の気候、特に冬の日本海側の気象に大きな影響を与えています。この暖流が冬に大量の雪をもたらす仕組みを説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2019年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 寒流と暖流がぶつかることで濃い霧が発生し、その湿った空気が季節風によって内陸へと運ばれることで雪へと変化する。 | 2. 暖流である対馬海流の上空で、大陸からの冷たく乾燥した季節風が水蒸気を蓄えて湿った空気となり、山脈にぶつかって雪を降らせる。 | 3. 暖流によって海水が冷やされることで上昇気流が抑えられ、乾いた風が吹き抜ける際に、山地で急激に冷却されて結晶化した雪が降る。 | 4. 対馬海流の影響で冬でも海面温度が下がらないため、低気圧が急速に発達しやすくなり、日本海沿岸にだけ局地的な大雨をもたらす。 |
|--|--|--|---|